

マタイによる福音書2章1-12節 「明けの明星」

1A ベツレヘムの星

2A 三者の反応

1B 東方の賢者「求める人たち」

2B 律法の学者たち「無視する人たち」

3B ヘロデ大王「殺す人」

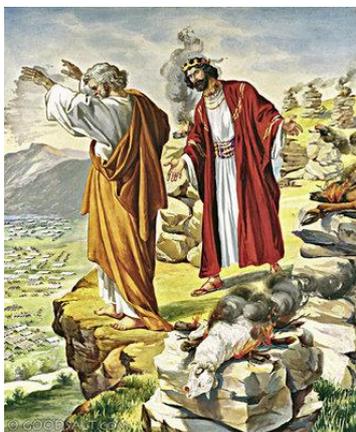
本文

1A ベツレヘムの星

この写真を見てください。真ん中に、大きな星がありますね。これは、「明けの明星」と呼ばれています。朝になりそうな時に、金星と呼ばれる星が、このように大きく、きらきら輝いています。この星が出ると、すぐに朝が来ます。朝がやって来ることを、「夜明け」といいます。それで「明けの明星」というんだね。



一つ、聖書の言葉を読んでみるね。「2ペテロ 1:19 また、私たちは、さらに確かな預言のみことばを持っています。夜明けとなって、明けの明星があなたがたの心の中に上るまでは、暗い所を照らすともしびとして、それに目を留めているとよいのです。」この手紙を書いたペテロさんは、イエス・キリストのことを「明けの明星」と呼びました。夜なのに明るく輝いているようなのが、イエス様だと言っています。そして夜だけれども、もうすぐ朝が来るようなのが、イエス様だと言っています。私たちの周りには、いっぱい悪いことがあるね。嘘をついたり、悪口をいったり、いじめたり、悲しんだり、泣いたり、誰かがけがをしたり、死んでしまったり、悪いことがたくさん起こっています。けれども、イエスさまだけはその中で光っています。イエス様が、私たちに希望を与えてくれます。イエス様を信じていれば、良いことが起こるんだって思うことができます。



昔々、イスラエルの人たちが、荒野、砂漠を歩いていた時のことです。今、朝の礼拝で、民数記を読んでいっているね。この前は、モーセさんが、二度、岩を打って、水が出てきたところを読んだでしょう？その後のお話しをします。イスラエルの人たちが旅をしていました。そしてテントを張っていました。そこに、モアブという国の王様がいました。イスラエルの人たちをやっつけたいと思いおました。けれども、イスラエルと戦ったら負けてしまうと思いました。それで、ずっと東のほうに住んでいる人で、バラムという人がいて、その人を連れて来ました。彼はまじないをする人です。「ちちんぷ

いっい…」みたいなことを言って、悪いことが人に起こるようにさせていた人です。それで、モアブの王様バラクは、まじないをするバラムに、イスラエルに悪いことが起こるように祈ってくれ、とお願しました。

バラムは、それをしようとした。ところが、全然できませんでした。何とか口に出してみたら、なんと、悪いことではなくて、良いことが起こるようにお祈りしてしまったのです。祝福されるようにお祈りしました。バラムさんは、神さまを信じていない人だったのですが、けれども、神さまがバラムさんの口を動かして、そうさせたのです。それでバラムさんがこう言いました。

私は見る。しかし今ではない。私は見つめる。しかし間近ではない。ヤコブから一つの星が上り、イスラエルから一本の杖が起こり、モアブのこめかみと、すべての騒ぎ立つ者の脳天を打ち砕く。
(民数記 24:17)

イスラエルから星が出てくるよ、ってお祈りしたんです。そうですね、キリストがやって来る、悪いことばかりが起こっているところに、光のように輝いて、良いことをしてくれる人がやって来る、って預言したんです。

このことが起こってから、800 年ぐらい経った後に、バラムがいたところ、東のところでバビロンという大きな国がありました。そこにネブカデネザルという王さまがいましたが、その人はイスラエルからユダヤ人の人たちを捕まえて、自分の国に連れてきていました。その中にダニエルという人がいました。まだ十何歳かの男の子です。高校生かな、大学生かな、そのくらいのお兄さんでした。ネブカデネザルがある時に夢を見ました。すごい夢だったんですが、あまりはっきり覚えていません。それで、星をつかってまじないをする人たちを集めました。星がどうやって動くのかを調べて、いろいろな呪いをしていた人たちです。その人たちに、夢が何だったのか教えなさいと言いました。ところが、答えられませんでした。それでネブカデネザルが怒りました！それで、「みんな、殺す！」と言いだめたのです。

ダニエルも殺されそうになりました。けれども、彼は友達三人といっしょに神様に祈りました。そうしたら、神さまが夢のことを教えてくれました！それを王様のところに伝えにいきます。それで、ネブカデネザルは、星占いをするような人では



はなく、星によって呪いをするような人ではなく、ダニエルの神さまが本当の神なんだ、と神様をほめたたえました。だから、バラムとか、バビロンの人とか東のほうにいる人々は、ずっと前から、ユ

ダヤ人のところから星が出てきて、悪いことばかりあるところに、良いことをしてくれる方、キリストが来ることを知っていました。

2A 三者の反応

1B 東方の賢者「求める人たち」



そして、六百年ぐらい後に、東にいた人たちが星を見ました。この人たちは、バビロンの人たちのように星がどう動くのか調べていました。そうしたら、ダニエルのことや、バラムのことを知ったのかもしれませんが。ユダヤ人のところからキリストが出てくる、そこにユダヤ人だけでなく自分たちのことも救ってくれる、王さまが出てくるって分かりました。それで、長い長い旅をしました。

それでイスラエルの都エルサレムに着きました。そこには、ヘロデという王さまがいました。ユダヤ人の王さまです。その人に、「私たちは東からやってきた者たちです。私たちはそこで、星を見ました。その星は、ユダヤ人の王さまが生まれたことを教えてくれています。だから、その王さまに礼拝をしたくて、やって来ました。」ヘロデはびっくりしました。自分がユダヤ人の王さまなのに、別にユダヤ人の王がいるっていうのです！



2B 律法の学者たち「無視する人たち」

ヘロデは、それで、ユダヤ人の聖書をよく知っている人たちに聞きました。「キリストが出てくるっていうのは、どこからなのかね？」ユダヤ人の聖書を知っている人は、「ベツレヘムから出てきます。」と答えました。昔、ミカという預言者が、ベツレヘムからイスラエルの王が出てくるって話していたからです。

3B ヘロデ大王「殺す人」

それで、ヘロデは、その東から来た人々に、「あなたたちも、どこにいるか分かったら教えてくれ。私も、礼拝しに行くから。」と言いました。けれども、ヘロデはそんなことを考えていないで、殺そうと思っていたのです。

東から来た人たち、博士たちはベツレヘムに行きました。するとなんと、ずっと見てきた星がまた出てきて、それで自分たちを導いてくれるではありませんか！彼らはとても喜



びました。ある家のところまで、その星はきて、その上で止まりました。そこに入ると、小さいイエス様がおられたのです。



それで東から来た人たちは、自分たちが用意していた贈り物を、イエス様があげました。黄金、金と、乳香という、香りのするクリームみたいなのと、そして没薬という、死んだ人が腐らないようにするためのクリームのようなものです。この贈り物を渡して、イエス様を礼拝しました。

この人たちは、もしかしたら、イエス様が死んでしまうかもしれないことを知っていたかもしれませんが。死んだ人につける没薬をイエス様に上げているのですから。

イエスさまが、私たちの罪のために代わりに死んでくださることも知っていたかもしれませんが。

イエス様は、本当に嫌なこと、悪いことがたくさんある、暗いところに光として来てくださいました。十字架という、本当に本当に酷いことが起こりました。でも、イエス様は三日目に生き返ってくださいました。光となるためです。星のように輝くためです。僕たちは、自分の悪いことで、他の人の悪いことで暗い気持ちになるけれども、イエス様が星のように光ってくださいます。そして、イエス様は、再び戻ってきてくださいます。また戻ってきて、夜が明けて、朝が来て、太陽が輝くお昼のようにしてくださいます。神の国を立ててくれるんだね。

イエス様が、みんなの心に星のように輝いているかな？とてもつらいとき、苦しい時、悲しい時、イエス様がいっしょにいることを知っているかな？悪いことしてしまったとき、罪を犯した時に、イエス様が十字架につけられて赦してくださったことを知っているかな？